平成 31 年度

学 校 評 価

< 記入上の留意点 >

評価 は教職員、評価 は校園長、評価 ・評価 は学校関係者評価委員の評価を記入する。

評価 は小数第一位まで記入する。評価 は4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。
評価 はA B C Dで記入する。

学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

評価、評価 の基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

評価 の基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

常 陽 中

学 校

平成31年度 学校評価

[各校の重点取組について]

生徒が主体的に学ぶ授業作りに努める	規範意識の醸成と授業規律の遵守に努める
家庭学習の充実・自学自習の習慣付けに努める	生徒会活動等の充実により、リーダー育成に努める

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.5	3
取組とその成果	課題と改善策	
・全教職員が研究推進委員会の3つのチーム部会に所属し、学力向上や授業改善に意欲的に取り組んだ。 ・特別支援コーディネーターを中心に、定期的に特別支援委員会を実施し、情報交換を行うと共に、職員会議により全職員で共通理解を行った。 ・保健師による「食育」をとおして生活習慣予防の出前授業に取り組んだ。 ・保健体育の授業に毎時間持久走を導入し、その集大成としてマラソン記録会を実施するなど、体力・運動能力の向上に努めた。	・3年生においては、小学校段階での基礎が不十分で躓きが多いが、教職員の授業改善などの工夫と努力により大きく学力の向上が見られた。 ・1・2年生のステップアップ調査から生徒に実態と教職員自身の指導法など多角的に分析し、日々の授業に反映させていく必要がある。 ・少人数学習を習熟度で分け底辺層の生徒の学力を引き上げる取り組みが必要である。 ・放課後学習を希望者だけでなく指名制を導入し、学力の向上につなげる必要がある。 ・発達特性の見られる生徒の増加に伴い、研修会や講演会をとおして指導法の工夫など生徒理解に努める必要がある。 ・運動する生徒としない生徒の二極化が進んでいる現状を踏まえ、体育の授業や行事をとおして運動習慣を身につけさせる必要がある。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりやに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3.5	3
取組とその成果	課題と改善策	
・『あいさつ尼崎一』を目標に掲げ、日々のあいさつ運動による登下校指導や授業・朝学活・終学活など折に触れてあいさつを徹底し、礼節を身につけ集団生活に適應できるように指導している。 ・道徳については、指導法や評価の方法について教職員で研修を深めた。 ・行事などを通じて思いやりや相手を尊重すること、信頼や協力などを意識させ指導した。 ・毎学期、教育相談を実施し、生徒の内面の理解に努めるとともに、全教職員で情報交換を行い、いじめに対する感度の向上に取り組んだ。 ・職業選択や進路選択について、講師を招聘し、講演会を実施した。	・教職員から積極的にあいさつなどの声かけをしていくことで生徒と教職員との良好な関係性が構築された。 ・いじめの案件が昨年度に比べ増加したが、教職員のいじめに対する感度の向上と捉えることが出来る。いじめについては、早期に認知し、教職員が組織的に対応することが必要である。 ・不登校生徒の数は、学校規模が小さくなっているにもかかわらず、減少には至っていない。小学校での早い段階からのカウンセリングなどの対応が必要であり、小学校との連携を深める必要がある。 ・1年生で職業体験の講演会、2年生でトライやるウィーク、3年生での進路選択と3年間を見据えた指導が定着している。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	4	4
取組とその成果	課題と改善策	
・本校の研究推進体制として特徴的なのが全教職員が「総務班」「小中連携班」「学力向上班」のどこかのグループに所属し、生徒の学力向上を目指して、教職員の授業改善や資質向上に向けた取組を行っていることである。生徒の実態を分析すると共に、有効な手立てを考え実践している。 ・学期末、全校生徒で行っている「ふれあい清掃」に育友会だけでなく地域の方々にも参加していただき、ゴミのない校区づくりに取り組んでいる。 ・武庫地区の名所の一つである武庫川コスモス園の種まきに生徒会執行部や有志の生徒で参加するなど地域貢献に取り組んでいる。	・ステップアップ調査の結果を有効に活用し、生徒の実態を分析すると共に、教職員自身が自分の指導法を振り変え、改善につなげる意識を持つことが大切である。定期的に講師を招聘し、教職員の資質向上に取り組む必要がある。 ・定時退勤日を週に2日間設定し、学年や部活動を考慮し、2グループに分けることで、積極的に取り組むことができた。 ・生徒会が中心となって周りの方々に支援されるばかりでなく、地域の方々や周りの方々に積極的に貢献できるような意識を高める必要がある。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価 (教職員)	評価 (校園長)
	4	4
取組とその成果	課題と改善策	
・AEDの使用方法や心肺蘇生法等の救急救命講習を総合学習で2年生全員が受講した。 ・生徒会が「むこっ子防災キャラバン」事業に参加し、高校生や大学生と共に地域防災について学んだことを文化発表会の生徒会劇で発表することで、全校生徒に周知・広報できた。	・交通量が多く、長年危険を感じていた登下校に利用する道路に横断歩道を設置していただき、安心して登下校できるようになった。 ・予告なしの防災訓練など、実施方法を再考する必要がある。	

教育目標		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		4	3.5
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、主体的に学ぶ姿勢が身につくつある。 ・規範意識の向上と共に落ち着いた学習環境が整っている。 ・終学習や自主学習ノートの取り組みにより家庭学習の充実と自学自習の習慣化に取り組んでいる。 ・学校全体で夏休みの課題や日々の課題などの提出に重点的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出はできるようになったが、自分から進んで学習する態度は不十分である。 ・定期テストの間違い直しなど自身の学習を振り替えることが不十分である。 ・教職員全員で授業規律の遵守について共通理解をすすめることが必要である。 ・家庭学習・自学自習の習慣化に向けて更なる手立てが必要である。 		

研究テーマ		評価 (教職員)	評価 (校園長)
		2.5	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組むことで、生徒の発言や意見交換などが積極的に行われるようになった。 ・発達に特性が見られる生徒に対して専門家のアドバイスを受け対応することで生徒の理解が深まり、生徒の特性に応じた指導を行う事ができた。 ・道徳の指導方法・評価について教職員間で共通理解を行い、丁寧な取り組みを行う事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を積極的に取り入れ、授業改善に努める教職員がいる一方で従来の講義型の授業から抜け出せない教職員もいる。教職員の意識改革が必要である。 ・保護者を対象に講師を招聘し、発達に特性のある生徒に対しての対応を研修する必要がある。 ・道徳に対してさらに研修を深め自身の授業力を身につける必要がある。 		

		評価 (教職員)	評価 (校園長)
取組とその成果	課題と改善策		

学校関係者評価

評価の基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <p>・平成30年度の1・2年生の授業を受ける態度や取り組む姿勢が、平成31年度かなり変化している。前向きな生徒が多いと感じられる。 ・先生の話をよく聞いて、嫌いな科目でも頑張るなど落ち着いて授業が受けられている。体育大会を観覧したが、良かった。また、マラソン大会を3年前より復活して続いていることは素晴らしい。 ・全体において大変良く取り組んでいる。きちんと着席して落ち着いて授業を受けている様子を感ずる。</p>	3.5
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <p>・学校生活において学年が上がるにつれて生活態度やルールに従って行動している姿が伺える。 ・あいさつが良くてきている。アンケートで「学校に行くのが楽しい」と答えている生徒が多く素晴らしい。 ・先生とよく話したり相談できている。生徒が学校や社会のルールを良く理解しながら部活動や学習に努力している。</p>	4
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <p>・体験活動等を積極的に取り組み、生徒・地域・先生と上手く連携がとられている。 ・「常陽中だより」により学校の様子が把握できる。ふれあい清掃の参加を楽しみにしている。 ・家庭・地域・学校といろいろ工夫され、連携を深めている。</p>	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <p>・熱心な取り組みが感じられる。 ・安全教育の取り組みを継続することが大切である。 ・年間を通して計画的に取り組んでいる。</p>	3.5
<p>教育目標</p> <p>・目標に向けてかなり高い意識を持って取り組んでいる。 ・「クラスで困っていると助けてくれる雰囲気がある」と多くの生徒が答えていること、朝学習にもしっかりと取り組んでいることが良かった。読書習慣が身につくことを期待している。朝礼の時に校歌を3番までしかも2部合唱をしているというところは素晴らしい。 ・アンケートを見る限りよく取り組んでいると評価できる。</p>	3.5
<p>研究テーマ</p> <p>・先生の話をよく聞いて落ち着いて授業を受けることができる環境を引き続き維持して欲しい。 ・良く努力している。</p>	3
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B